

Galway Kinnell の詩と人生

——Whitman の詩学のエコロジカルな吸収とその実践に関して——

小 林 愛 明

0. はじめに

本論では、ゴールウェイ・キネル（Galway Kinnell, 1927-2014）の作品を、ホイットマン（Walt Whitman, 1819-92）の詩学とディープ・エコロジーの観点を結び付けて考察する。キネルは Gioseffi とのインタビューで、もし詩人でなければ「環境保護者」になりたかったと述べ、実践としても Tobias が編纂した *Deep Ecology*（1985）に“Ruins under the Stars”と“*There Are Things I Tell to No One*”の2編を寄稿している。一方、筆者の知る限り、キネルとエコロジーの関係を論じた研究は僅かに留まり、ホイットマンとの関連となると恐らく皆無である¹。以下、最初にキネルとホイットマンの関係を伝記的に概観し、従来の批評も簡単に紹介する。次に両者の関係をディープ・エコロジーの観点から考察し、キネルがホイットマンから汲み出したエコロジカルな詩学を探る。最後に第5詩集 *Mortal Acts, Mortal Words*（1980）に収められた“*Saint Francis and the Sow*”を分析することで、上記の実践がこの詩に反映されていることを明らかにする。

なお、便宜を図るために、これ以降、キネルやホイットマンの作品に関しては、最初の言及で全てのタイトルを記し、それ以降は冠詞を除く一番目の単語のみを記す。ホイットマンの“*Song of Myself*”に関しては“SM”と略し、直後に節の番号を付ける。キネルの作品の底本としては *Collected Poems*（1990）を使用し、CP と略す。なお、キネルの詩は版

によって様々な異同が存在する。各年代に書かれた論文等を参考にする
が、それらが扱っている詩の版が底本と異なる場合も、一程度その解釈
が妥当な場合は採用する。

1. ホイットマンとの伝記的な関係と先行研究に関して

最初にキネルとホイットマンの伝記的な関係を概観する。キネルがホイットマンの作品と出会ったのは高校時代である。だが、この時は極端に質の低い作品があることに辟易し、読むのをやめている。また、1944年にプリンストン大学に入学して以来、最も影響を受けたのは、クラスメイトのマーウィン（W. S. Merwin, 1927-2019）から教えてもらったイエイツ（W. B. Yeats, 1865-1939）だった。その後、キネルは1949年にロチェスター大学でクレイン（Hart Crane, 1899-1932）に関する論文で修士号を得ているが、この時もホイットマン理解に関しては表層に留まったはずである。

キネルがホイットマンを再発見したのは1956年である。前年にキネルはフルブライト奨学金を得てフランスへ行き、翌年からグルノーブル大学で *Leaves of Grass* を教えたのだ。それ以来、キネルはホイットマンを「第一の師」とし、それまでニュークリティシズムの影響下で書いていた伝統的な詩形を捨て、ホイットマン流の「緩やかな抑揚を持つ、長い行」で詩を書くようになった（“Introduction” xi）。

1957年、キネルは兄が死亡したため一時帰国し、ニューヨーク大学で講師を務めた。キネルが実質的な第一詩集 *What a Kingdom It Was* (1960) を書いたのはこの時期である。当時、キネルはグリニッジ・ヴィレッジに住んでいた。同詩集に収められた“The Avenue Bearing the Initial of Christ into the New World”には、都会の喧騒やスラム街に暮らす貧しい移民たちへの同情がホイットマンに強く影響されたスタイルで書かれている。

1960年、キネルはフランス滞在中に公民権運動を耳にして義憤に駆

られた。同年に帰国後、キネルはすぐに人種平等会議（CORE）と学生非暴力調整委員会（SNCC）に参加し、ルイジアナ州で黒人達の有権者登録や職場での人種統合を援助した。1963年、キネルはこれらの活動により逮捕され、ポン引きや車泥棒と一緒に5日間刑務所で過ごしている。この時の経験は、1964年に出版した *Flower Herding on Mount Monadnock* に反映され、同詩集に収められた“The Last River”にはホイットマンを想起させるキャラクターが登場する。

1960年代半ばから、キネルは徐々にベトナム戦争に反対しはじめる。1966年、キネルはブライ（Robert Bly, 1926-2021）やライト（James Wright, 1927-80）と一緒にニューヨーク州の複数の大学で反戦詩の朗読会を行った。また、1967年に、キネルはニューヨークのタウンホールにて、オゴーマン（Ned O’Gorman, 1929-2014）が企画した朗読会“Poets for Peace”にクニッツ（Stanley Kunitz, 1905-2006）やローウェル（Robert Lowell, 1917-77）達と参加している。さらに翌年、キネルはブライやレイ（David Ray, 1932-）達と共に“Poets Against the War in Vietnam”に参加し、カリフォルニア大学サンタバーバラ校近くの教会で詩の朗読会を行った。この時キネルは *Body Rags*（1968）に収録した“The Bear”と“Vapor Trail Reflected in a Frog Pond”を朗読したが、後者にはホイットマンの“I Hear America Singing”が皮肉な形で引用されている。

1988年、キネルはThe New York Center for Visual Historyが制作した *Voices and Visions* にギンズバーグ（Allen Ginsberg, 1926-97）やホール（Donald Hall, 1928-2018）達と共に出演し、ホイットマンの現実を直視する姿勢や、言葉の身体性、俗語の使用等を称賛している。また、“SM”をはじめとするホイットマンの詩の朗読を全て担当した。

1992年、キネルはニューヨークの教会で、ホイットマン没後100周年を記念する企画“Democracy’s Poet: A Walt Whitman Celebration”に、ギンズバーグ、ウィリアムズ（C. K. Williams, 1936-2015）、オールズ（Sharon Olds, 1942-）達と参加した。ここでキネルは“Passwords: Galway Kinnell

on Walt Whitman”と題する講演を行い、ホイットマンの“SM”、“Poets to Come”、“When Lilacs Last in the Dooryard Bloom’d”、“I Sing the Body Electric”、“Crossing Brooklyn Ferry”等の代表作に触れつつ、自由詩の利点や性の問題について論じている。また、キネルは“SM”10と19に言及し、これらの中に黒人に対する「人種差別的な常套句」を見出してホイットマンを批判している。キネルが公の場でホイットマンを批判しているのは、現在入手できる資料の中ではこれが唯一の例である（“Passwords”）。

2001年、キネルはニューヨークで同時多発テロが発生すると同時に、アメリカの対イラク政策を批判するようになる。この事件に関して、キネルはQuinnとのインタビューで、「誰かがアウシュビッツの後で詩は書けない、と言う時、その人は詩が生と死（中略）に対する、もっとも深い反応を示す媒体であることを忘れていると思うのです」と語り、この悲劇に対して詩で向き合おうとした（“Writing”）。そして、実際に“When the Towers Fell”を書き、2002年に*The New Yorker*で発表している。この詩で、キネルはホイットマンの“City of Ships”と“When Lilacs”を引用し、南北戦争の情景と重ねながら、戦争の悲惨さや、残された遺族の悲しみを歌っている。

2003年、再びホイットマンが召喚される。同年、ローラ・ブッシュ大統領夫人（Laura Bush, 1946-）は“Poetry and the American Voice”と題するシンポジウムを2月12日に開催することを決定し、キネルや他の詩人達をホワイトハウスに招いて、ホイットマン、ディキンソン（Emily Dickinson, 1830-86）、ヒューズ（Langston Hughes, 1902-67）に関して討議しようとした。だが、同じく招待されていたハミル（Sam Hamill, 1943-2018）は、その直前にブッシュ大統領（George W. Bush, 1946-）によるイラクへの「衝動と畏怖」作戦を耳にしていたため、2月12日を“Poetry Against the War”の日に定め、シンポジウムで他の詩人達と反戦詩を読む計画を立てた。これに気づいたローラは急遽企画を中止した。

政府のスポークスマンによれば、ローラは「すべてのアメリカ人が自分たちの意見を表明する権利は尊重するが、同時に、文学的なイベントが政治的なフォーラムになることは適切ではない」と考えたのである（“Conversing”）。

これに対抗するために、キネル達はバーモント州の教会で“A Poetry Reading in Honor of the Right of Protest as a Patriotic and Historical Tradition”と題する朗読会を開催した。参加者は、同州に暮らすペイリー（Grace Paley, 1922-2007）、パリーニ（Jay Parini, 1948-）、キンケイド（Jamaica Kincaid, 1949-）の他に、他州からはストーン（Ruth Stone, 1915-2011）やホール達が参加した。この時、キネルはホイットマンの“To the States”（*Poetry* 172）を朗読し、詩中の「おおいに抵抗し、服従は少なく」（“Resist much, obey little”）を引用しながら、政府の「無謀」な言動を信じるのではなく、自分の「直観」と「感覚」をもとに、何が「正義」なのかを問うよう呼びかけている（Passmore）。なお、ストーンはディキンソンの“I’m Nobody! Who are you?”を、別の詩人もヒューズの“Harlem”を朗読し、この企画全体をホワイトハウスへの意趣返しとした²。

その他のキネルの公的な活動としては、Poets House が主催するホイットマン関連のイベント“Poetry Walk across the Brooklyn Bridge”に参加していることが挙げられる。キネルは初回から同企画に参加しているが、2006年には“SM”52を、2008年と2010年には“Crossing”を朗読している³。

最後に先行研究に関して述べておこう。キネルとホイットマンの関係については“Avenue”に関するものが多い。スタイルに関しては、キネルがホイットマンと出会ったことでニュークリティシズムの影響から脱却したこと、ニューヨークを描く際に、ホイットマン流のカタログ、パラレリズム、口語、俗語等を用いたことが指摘されている。内容に関しては、“Avenue”や“Vapor”等で、ホイットマン流の民主主義の挫折が皮肉な形で書かれていること、“Last”では西部漸進の言説に則るホイット

マンの帝国主義的な姿勢が批判されていること等が指摘されている。概して言えば、キネルはホイットマンからスタイルを吸収する一方、内容に関してはその公の精神を引き継ぎつつも、時には批判をしていると纏めることが出来るだろう⁴。

2. ホイットマンから吸収するディープ・エコロジーの詩学に関して

だが、キネルにはホイットマンから直に受け継いだものがある。それはホイットマンが自然界に向けたエコロジカルな姿勢である。以下、ディープ・エコロジーの観点から両者の関係を考察する。

まず、キネルは“Voices”において、ホイットマンが死を「敗北」ではなく、生と死の「循環」として受け止めていたと述べている。また、キネルはエッセー“Whitman’s Indicative Words”やホイットマン死後 100 周年を記念して放送された特別番組でホイットマンの“*This Compost*” (*Poetry* 495-97) を称賛している (“Allen”, “Whitman’s” 318-19)。この詩は自然の治癒力によって、地中の「腐臭を放つ死者たち」から万物が「夏草」として繁茂するという内容である。Killingsworth も指摘するように、この詩は 20 世紀後半のディープ・エコロジーを予期する作品となっている。さらにキネルはエッセー“Poetry, Personality and Death”において“SM” 24 (*Poetry* 210-13) に触れ、ホイットマンが糞を転がす「甲虫」を含む万物を愛した点を絶賛し、一つの極論として「うんこ」(“Shit”) というタイトルの詩集があっても良いはずだと主張する。キネルにとっては、「うんこ」も人間の体から出てきた「現実の一部」であり、「聖なる物」なのだ (266-67)。こうした発言も“*This Compost*”に触発されたものであろう。

また、キネルはホイットマンが自己と事物を同一化することを称賛している。これもディープ・エコロジーと関係がある。この運動の提唱者であるネス (Arne Næss, 1912-2009) は、エッセー「自己実現」において「拡大自己実現」論を掲げた。ネスはガンジー (Mahatma Gandhi,

1869-1948) の非暴力主義を例に出しつつ、ガンジーが「自己を減する無私の行為」を通じて生命との親密な結びつきを求めた点に着目する。さらにネスは、赤子が「主体・客体・媒体」に対応する概念作用を欠いている事に注目し、自身の目的として、この赤子に近い「原初的」かつ「一元的存在」の状態を通じて自我と他我の「対極性」を超越し、地球上のあらゆる生命と「同一化」することで、傷ついた星「ガイア」を救おうと提案するのだ (46-69) ⁵。

キネルは上記のエコロジカルな「同一化」をホイットマンの中に見出している。具体的にキネルは“Whitman’s Indicative Words”の中で“SM” 24 を例に出し、ホイットマンが先の甲虫の他に、菖蒲、鳴、楓、小麦、樅、朝顔などに対して「自己」を開き、それらと「結合」することで、ホイットマンが事物そのものの「声」になっていると指摘する。また、キネルは“Crossing” (Poetry 307-13) を取り上げ、最終節におけるブタ、オオカミ、ヘビ等を含める様々な「物象」への呼びかけ、「ぼくらは用がすんでも捨てたりしない——君らを永遠にぼくらの内部に植えつけてやる」にも同じ同一化を見出し、その声が「個人的であると同時に普遍的」であると述べている (314-17)。以上の主張は、ネスの「拡大自己実現」論と完全に重なるだろう。

キネルが動物詩を数多く書いたのもディープ・エコロジーと関係がある。キネルは“Poetry, Personality and Death” (262) でスナイダー (Gary Snyder, 1930-) の“Poetry and the Primitive” (1969) に触れている。このエッセイにおいて、スナイダーは人間の「性質」(nature) と「自然」(nature) を融合し、「地球上に生きる自然」とのバランスを取るための方法を提示する。スナイダーは具体的に古代の狩猟呪術を取り上げ、儀式においてシャーマンが自身の「体と感覚」を最大限に活用し、「誠意」ある歌を歌うことで、「慈悲」を感じた獲物をおびき寄せ、同時にそれらの「出産」や「繁殖」を祈願したと述べている。さらに、スナイダーは世界中の民話に見られる「動物婚姻譚」を例に出し、こうした太古の

儀式において、人間が「破壊的、悪魔的、反対感情両立」を含む全ての側面を象徴的に演じることで、自らを自我から解放し、自然と「調和」させていたと主張している。スナイダーにとって、「シャーマン詩人」はその「精神的実践」として自然界の全生命に入り込み、「内なる自己と地球の歌」を歌う存在なのである（*Earth* 117-30）。

キネルはスナイダーの言う狩猟呪術の詩を実際書いている。それは、キネルのアンソロジーピースであり、沢崎による邦訳がある“The Bear”である。キネルは、Fitz Gerald とのインタビューでこの詩に触れ、詩中の狩人が人間の「精神的な部分」を、熊が「人間の非精神的な暗黒の部分」を表すと語り、狩人が熊の体に入るシーンで両者が「統一体」になっていると述べている（126-27）。さらにキネルは *The Ohio Review* とのインタビューで自身の動物詩が「儀式や聖なる伝統」に連なるものだとして主張している（“Galway Kinnell with The Ohio Review”）。上記のスナイダーとの関連性は明らかであろう⁶。

それでは、キネルがディープ・エコロジーの詩を書く際には、どのような技巧が要求されるのだろうか。これもキネルのホイットマンに対する言及を分析すれば明確になる。キネルは *The Ohio Review* とのインタビューで“Crossing”に触れながら、ホイットマンが事物の「全一性」を尊重するために、その「本質」ではなく、「外見」をそのまま詩に取り込むことで、それ自体の「存在」を際立たせた点に注目する（“Galway Kinnell with The Ohio Review”）。“Crossing”に即して例を挙げれば、ブタはただ“hog”と単純に記され、そのままの形で詩に現れるのだ。ただしキネルは事物の表面のみを重視したのではない。キネルは Gardner とのインタビューで、ホイットマンが「内面の形容詞」（“inner adjective”）を重視したと述べている（432）。これはキネル独自の用語だが、これに関しては“Whitman’s Indicative Words”を読むと良く分かる。ここでキネルは“Song of the Broad-Axe”（*Poetry* 331-34）の斧で割られた松材の「バター色の木片」（“The butter-color’d chips”）という表現に触れながら、

ここで使われている形容詞が事物に色や形を与えつつ、「生物やその事象」そのものを表していると主張する (316-17)。確かにこの形容詞は割られた樹木の瑞々しい色あいや甘い香りを伝達することで、木の内側に存在している生命力を表してると言える。一方でキネルは、人間が言葉や概念で事物を占有することに反対している。キネルは Atkins とのインタビューで人間の救済を抽象的に語る宗教を退け、真の宗教とは、「現実」を直視しつつ、己が「無知」であるという自覚のもとに、その「現実の不可知性」に対して「真なる敬意」を払うものであると主張する (174)。以上のことから、キネルがエコロジカルな詩を書く際は、まず事物そのものを表す単語を提示し、仮に修飾語等を用いる場合も、事物の内的生命を表現するものに限るはずである。また、事物への敬意として、それ自体の不可知性が確保されるだろう。

音やリズムに関してはどうだろうか。まず、キネルは Dodd とのインタビューで *Leaves* 初版の「序文」(*Poetry* 5-26) に触れ、ここでホイットマンが「動物の身のこなし」とその「完璧な正確さと伸びやかさ」と呼ぶものを詩の中で実践していたと言う。その例として、キネルはホイットマンの“RESPONDEZ!” (*Poetry* 678-81) を挙げ、詩中の“Let the cow, the horse, the camel, the garden-bee [. . .]!” で始まる行を引用し、動物の羅列が続くこの行が「韻律」や「体系」を甚だしく欠く一方、その力強い語勢によって「語られているもののリズム」、つまり動物の始原的な律動を表現していると主張する (47-48)。さらに、キネルは“Pass-words”で“SM”5 (*Poetry* 192) に触れ、「君の喉から栓をはずせ／歌詞も旋律も押韻もいらぬ (中略) ／のどかな調べだけがほくは好きだ、君の弁の付いた声の低い呟きだけが」(“[L]oose the stop from your throat, / Not words, not music or rhyme I want [. . .], / Only the lull I like, the hum of your valvèd voice”) という行を引用し、これが母親が赤子に歌いかける子守歌のリズムになっていると指摘する。母親は赤子に小声で歌う、すると、赤子も歌い返す。そして、両者は言葉を介すことなく「音楽」だ

けで理解しあうと言うのだ（“Passwords”）。これは、ネスが赤子に関して言った、「主体・客体・媒体」を欠くが故の万物との合一が想起される発言である⁷。またキネルはこうしたホイットマンの声が「個人的」かつ「普遍的な調べ」であるが故に、“SM”全体が「部族の歌」になっていると主張している。これも、先のスナイダーの狩猟呪術に関する主張と重なるだろう。従って、もしキネルが自分の詩でこうしたホイットマンの声をエコロジカルに実践すれば、動物に関しては、その始原的な音がカタログと共に再現されるはずである。また、音やリズムに関して言えば、言語以前の子守歌、ないしは呪術的なものに近づくだろう。そして、儀式としては、紙の上だけではなく、時に公の場で朗読されるはずである。

最後に、キネルにおけるホイットマンの影響を、オーガニック・フォームの観点から述べる。キネルは Costanzo の言う、ホイットマンの「超絶的有機体理論」、要するに、自然界の「成長と発展のパターン」を人間の「身体と魂」に重ね、それを詩集に反映するという考え方に影響を受けている（“Organicism”）。このことは、キネルが Gardner とのインタビューで、ホイットマンの“SM”を時間を含む「生きているテキスト」と呼び、“Avenue”、“Last”、*The Book of Nightmares*（1971）といった自身の長編詩でも同様の実践を試みていることから分かるだろう（429-30）⁸。

このことは、キネルに別の現象を起こしている。ホイットマンと同様、キネルは数多くの詩を書き換えた。その激しさは、ある種、キネルが終わらない長編詩を書いていたことを示している。極端な例だと、ホイットマンの“The Last Invocation”からタイトルを取った *Strong Is Your Hold* はテキストと付属 CD の朗読とでは細部が異なる。また、同詩集の“Ode and Elegy”は、出版後に改訂されて再度 *The New Yorker* で発表されている。さらに *A New Selected Poems* は、ハードカバー版とソフトカバー版で一部改訂が施されている。そもそもこの場合は、タイトルに付けられ

た不定冠詞自体が、どちらも確定版ではないことを語っているだろう⁹。このことは、キネルの全作品内に同一のタイトルを持ちながらも主旨が異なる詩が複数存在するという平行的状況が生じていることを明白に示すのだ。

キネルは自身が編纂した *Essential Whitman* の「序文」で、ホイットマンが死ぬ一年前に残した言葉、「長い時を経たあと、世界はこの本を好きなように扱うだろう」という言葉を引く (xiv-xxiv)¹⁰。キネルは編纂者として 60 年代半ば以降の“SM”の詩的衰えを指摘し、自身が最善と見なす版を選び、時に別の版同士を組み合わせることでこの詩集を作った。だが、このホイットマンの言葉自体が、編纂以前に、異なる版が同等の資格で読者の前に存在することを明かしている。キネルはエッセー “The Poetics of the Physical World” で詩の主題は「死ぬ物」、つまり、無常が対象であると述べ、故に、詩は「人間の声の不完全な音楽」で成り立つと述べている (125)。もし詩が成長の記録であるならば、その過程は全て不完全なものになるであろう。要するに、キネルはホイットマンの“SM” 51 に現われる、「おおいに結構、ぼくはたっぷり矛盾してやる」という姿勢に倣う形でその不完全性を平行的によってそのまま記録し、後世に伝えることを是とするのだ (*Poetry* 246-47)。これもホイットマン流の有機的な詩学の実践であり、後の詩のエコロジカルな解釈と深く関わるので、あえて強調しておく。

3. “Saint Francis and the Sow” の分析

以上を念頭に、次は “Saint Francis and the Sow” (CP 285-86) を分析する。以下に全文を引用する。

The bud
stands for all things,
even for those things that don't flower,
for everything flowers, from within, of self-blessing;

though sometimes it is necessary
 to reteach a thing its loveliness,
 to put a hand on its brow
 of the flower
 and retell it in words and in touch
 it is lovely
 until it flowers again from within, of self-blessing;
 as Saint Francis
 put his hand on the creased forehead
 of the sow, and told her in words and in touch
 blessings of earth on the sow, and the sow
 began remembering all down her thick length,
 from the earthen snout all the way
 through the fodder and slops to the spiritual curl of the tail,
 from the hard spininess spiked out from the spine
 down through the great broken heart
 to the sheer blue milken dreaminess spurting and shuddering
 from the fourteen teats into the fourteen mouths sucking and blowing
 beneath them:
 the long, perfect loveliness of sow.

まず、タイトルで示されるアッシジの聖フランチェスコ（Francis of Assisi, c. 1181-1226）について説明する。詩が取材しているのは、フランチェスコの「豚小屋のエピソード」である。1210年、フランチェスコは弟子達とともに教皇インノケンティウス三世（Pope Innocent III, 1161-1216）に謁見し、修道会創立の許可を求めた。だが、教皇はフランチェスコの清貧生活と粗末な格好を見て軽蔑し、「兄弟よ、豚のところに行きなさい。それが似合っているよ。糞尿の中で豚どもと付き合い、君が書いた会則を与えて、かれらに説教しなさい」と言った。この言葉

を受けて、フランチェスコは実際に家畜小屋へ入り、豚と戯れ、汚物まみれになった。その後、フランチェスコがもう一度教皇の前に進み出ると、これを見た教皇は先の扱いを後悔し、フランチェスコを正規の修道者として認定し、修道会創立の許可を与えたのである（川下, 53-58）。

また、フランチェスコは自然を慈しむ心を持ち、理性を持たない動植物や無生物もすべて神の尊い創造物であると考えていた。フランチェスコが書いた「被造物の賛歌」とも呼ばれる『太陽の賛歌』には、こうした姿勢が強く反映されている。なお、フランチェスコは、1979年にローマ教皇ヨハネ＝パウロ二世（Pope John Paul II, 1920-2005）によって環境保護に携わる人々の聖人として認定されている（川下, 3-5, 164-76）。キネルは1976年にこの詩を *The New Yorker* に寄稿しているが、1980年の詩集で改めて発表したのは、環境保護に対する強い思いがあったからであろう。

詩の分析に入ろう。まずは作品の主題を概観する。語り手は1行目から11行目で、万物に「蕾」、つまり豊かな生命力の可能性が宿っていると語る。次に語り手はその生命力を引き出すために、時に「言葉で語りかけ、触れる」ことでその「愛らしさ」を伝えなおす必要があると述べる。12行目から最終行までで、語り手はフランチェスコの故事をなぞる。フランチェスコは、雌ブタの「額」に手を置き、「言葉で語りかけ、触れる」ことで「大地の祝福」を伝える。すると、雌ブタは自分の「完璧な愛らしさ」を思い出すというのが大意である。

この詩は一見シンプルに見える。だが、細かく見ていくと、ホイットマンの影響が強く反映されていることが分かる。まず目立つのは、事物やその身体性の強調であろう。語り手は直喩や隠喩を避け、「蕾」、「額」、「花」、「手」、「おでこ」、「雌ブタ」、「大地」、「鼻面」、「尻尾」、「棘」、「背骨」、「乳首」、「口」、と言った名詞を、通常は否定的に捉えられる「糞尿」という言葉とともにカタログ的に並べている。また、雌ブタの容姿を捉えた「つくつくと背骨から突きでたかたい棘」（“the hard spininess spiked

out from the spine”)は、イメージだけでなく、“sp”の音の連続によって、内側から溢れ出るその荒々しい生命力を伝えている。一方で、21行目の“sheer blue milken dreaminess”（無理に訳せば「純然たる青みがかった乳のような夢見心地」となるだろうか）という抽象度の高い神秘的な表現は、例えば“sheer”の掛かる対象の不明確さや、“blue”（乳房の静脈や雌ブタの悲しみを表すのだろうか）の意味の不明瞭さ故に読者の解釈を妨げ、これによって「雌ブタ」の不可知性を確保している。

音楽性もホイットマンを想起させる。この詩は始めから終わりまで一息で語られている¹¹。特に後半は12行目の「聖フランチェスコ」から一気に語られ、21行目の“the sheer blue milken dreaminess sputing and shuddering / from the fourteen teats into the fourteen mouths sucking and blowing beneath them”という行は、迸る乳を表現する“s”、子ブタの活力を表す“b”、伸びやかな長母音、疾走感のある“ing”の連続と“fourteen”の繰り返しによってある種の呪術性を帯びる。また、雌ブタと子ブタの取り合わせは、キネルがホイットマンに見出した母親の子守歌による一元的な融合を示唆していよう。そして、それを踏まえれば、この部分が“SM”14 (Poetry 199-200) の「母親の乳首を引っぱりながら鼻を鳴らすひと腹の仔豚たち／（中略）／ぼくには彼らのなかにもぼく自身のなかにも同一不変の法則が見える」（“The litter of the grunting sow as they tug at her teats / [. . .] / I see in them and myself the same old law”）の引用であることが分かる。この詩は動作の主体が語り手とフランチェスコであるため、一見人間中主義的に見える。だが、ここに至って、両者は言葉とリズムの奔流によって背景に退き、同時にこれを聴く読者を巻き込んでブタと同一化させようとする。つまり、ここで語り手はシャーマンを演じているのだ。そうだとすれば、「言葉で語りかけ、触れる」というリフレインは、シャーマンのパフォーマティブな肉声を表していることになるだろう。

また、ここで思い出すべきは、キネルがホイットマンの同一化の例と

して挙げた“Crossing”におけるブタを含む万物への呼びかけ、「君らを永遠にぼくらの内部に植えてやる」という行の「植えつける」(“plant”)という言葉である¹²。キネルは“flower”と“sow”を4回づつ繰り返し、“sow”に「雌ブタ」の他に「種子を蒔く」という意味を重ね、これによって、大地から伸びた「蕾」が「花」を咲かせるという筋道を作っている(当然、「糞尿」はそのための肥やしとなるだろう)¹³。キネルは Poulin とインタビューで“SM” 52 (*Poetry* 247) の「ぼくはぼく自身を土にゆだねる、愛する草から生い茂るために」という行を引く。そして、この行が「詩の世界における、もっとも偉大な自己超越の一つ」であり、ここで語り手は「石」、「動物」、「草」そのものになっていると言う(22-23)。以上を踏まえれば、キネルのこの詩がホイットマンをエコロジカルに吸収することで成長した『草の葉』の一枚だと言うことが分かるだろう。こうして、キネルは事物の具体性を内面の活力と共に詩に取り込み、その不可知性を確保したまま、その音楽性によって人間を事物と同一化することで、「愛らしさ」、すなわち万物の尊厳を伝えるという、ホイットマンに見出したディープ・エコロジーの詩学を完遂するのだ。

なお、雌ブタの「ひどく傷ついた心」(“the great broken heart”)という表現は、唯一語り手の雌ブタに対する感傷的な部分が現れた個所である。この詩をエコロジカルな観点から分析した Hoorenman も“broken”という単語が雌ブタを「擬人化」することで人間中心主義に陥る危険性があると指摘する(“Writing”)。だが、この部分はキネルが最初に *The New Yorker* で発表した時は「不屈の偉大な心」(“the great, unbreakable heart”)となっていた。“unbreakable”は「不屈」の他に、「馴らすことのできない」、「解説できない」とも読め、雌ブタの不可知性が保たれる言葉である。キネルは1980年の *Mortal* で“broken”に変えたが、1982年の *Selected Poems* で“unbreakable”に戻し、1993年の *Three Books* でもう一度“broken”に戻し、以降、これが継承されている。この変更に関して、

キネルは *Three* の “A Note on the Revisions” において、「人間の感情的生と他の動物のそれ」との間に「共鳴」が存在しえないと考えることも「有害かつ完全に誤った考え」であることに気づいたからだと述べている (xi-xiv)。不可知な存在に向けるその愛情の強さに異議を唱えることも難しいだろう。既に本論ではキネルの作品にパラレルが存在することを指摘した。ここでは、“unbreakable” と “broken” の二つの間で揺れること自体が、ホイットマンの有機体理論を引き継ぎ、人間の不完全な息を是とし、不可知の物に対する敬意としての「無知」を肯定したキネルのエコロジカルな考え方の表明になっていると積極的に評価したい¹⁴。

最後に、キネルは実際にこの詩を 1988 年の Poetry Breaks シリーズで朗読していることを付け加えておく。シャーマンによる儀式的再現である。

4. 終わりに

本論では、キネルに対するホイットマンの影響をディープ・エコロジーの観点から論じた。結果、キネルがホイットマンの詩学をエコロジカルに吸収し、独自の詩世界を形成していることが分かった。一方、現時点で伝記が出版されていない以上、キネルの実人生における環境保護者としての活動がどのようなものであったのか不明な点が多い。また、ホイットマンに直接・間接的に触れた作品の読み直しと包括的な理解も必要になるだろう。今後もこの点を考慮しつつ、キネルとエコロジーの関係をより深く考察していく。

注

- 1 キネルの作品をエコロジーの観点から分析した研究や言及に関しては、Hirsch (“Introduction”) や Hoorenman (“Writing”) 等を参照のこと。
- 2 キネルは 2008 年に “Sprit This Rock” 祭に参加し、ここではホイットマンの “To the States, To Identify the 16th, 17th, or 18th Presidentiad” を若干アレンジして朗読することで、ブッシュ政権の対イラク政策を批判している (Passmore)。
- 3 キネルの伝記については、他にも Atkins, Baker, Bell (“Galway”), Bristol,

Byrne, Calhoun, Cambridge, Childs (“Obituary”), Collins, Cushing, deNiord, Diaz, Dodd, Dwyer, Edwards, “Exhibition”, Farawell (“2010”), Fitz Gerald, “Fooling with Words II”, “Galway Kinnell: Nuclear”, “Galway Kinnell Obituary”, “Galway Kinnell Papers”, “Galway Kinnell Reads”, “Galway Kinnell with The Ohio Review”, Gioseffi, Goldbarth, Haba, Hall, Hallenbeck, Harrington, Hass, Hawkins, Heyen, “An Interview with Galway Kinnell”, “An Introduction”, Keniston, Kinnell (“Whitman’s Indicative Words”), Kumar, McDowell (“Galway”), McDowell (“700”), McKenzie (“An Interview” and “To the Roots”), Mehr, Nawotka, “Passwords”, “Poetry against the End of the World”, “Poets Protest Loss of Podium”, Poulin, Preston, “Pulitzer”, Quinn (“Working” and “Writing”), Quirós-Garcia, Ravinthiran, Ring, Sanneh, *A Study Guide*, Taha, Trodd, “2006”, “2008”, Ullman, Wheeler, “Where”, Winship, “Worldwise” を参考にした。

- 4 キネルに関する先行研究については、“Avenue” に関しては Atlas (80), Bennett (“From I’ve Got” 40-41), Calhoun (13, 43), Dickstein (108-09), Hall (157), Hirsh (“Introduction” xxv-xxvi), Mariani (191, 200-01), Mills (“A Reading of Galway Kinnell: Part 2” 103), Nelson (“From ‘Ecclesiastical’” 188-89), Pack (44), Ricks, Zimmerman (11-12) を、“Last” に関しては Schenker や Weston (208) を、“Vapor” に関しては Folsom (“Kinnell”) や Zimmerman (12-13, 46-47) を、“When the Towers” に関しては Goldstein 等を参照のこと。
- 5 ネスが「ディープ・エコロジー運動」で述べているように、ここで言う「生命」は、「生物学の専門家が『生物』とはみなさない存在、たとえば、河川 [...], 地形、生態系」等を含んでいる (77)。
- 6 キネルは“The Bear” に対するスナイダーの影響として、Fitz Gerald とのインタビューで、“Gary Snyder has written a marvelous poem about bears” と述べているが、これは *Smokey the Bear Sutra* (1969) のことであろう (126-27)。
- 7 キネルは“Poetry, Personality and Death” でも、赤子の一元的状態に関して次のように述べている。“It [oneness] was set in our infancy. Not yet divided into mind and body, our mind still a function of our senses [...], we felt joyous connection with the things around us”, “[A] baby takes pleasure in seeing a thing, yes, but seeing is a first act. For fulfillment the baby must reach out, grasp it, put it in his mouth, suck it, savor it, taste it, manipulate it, smell it, physically be one with it. From here comes our notion of heaven itself. Every experience of happiness in later life is a stirring of that ineradicable memory of once belonging wholly to the life of the planet.” (265-66)
- 8 キネル自身の長編詩における「生きているテキスト」の実践に関しては、Dodd (46, 53), “Galway Kinnell with The Ohio Review”, Gardner (431), Poulin とのインタビューを参照のこと。
- 9 キネルは *A New Selected Poems* のソフトカバー版において、ハードカバー版から 3 編を削除し、新規で 8 篇を追加している。また、“Another Night in the Ruins” 等で一部改訂を施している。

- 10 ホイットマンの言葉は“Old Age Echoes” (575) から引用されている。
- 11 *The New Yorker* 版では途中で 2 箇所ピリオドが使われている。ホイットマン流の長い息を反映させる点においては、現行の版の方が優れていると言えよう。
- 12 ホイットマンをエコロジーの観点から分析した藤江も、「(ホイットマンは)『豚は私のなかにいる』(中略) とうたう。(中略) ここでは、「豚」や「悪」は「私のなか」に存在するものであり、自己と他者、人間と自然、あるいは動物との亀裂を埋めるものとして作用する」と述べている (84)。
- 13 キネルは詩の黙読と朗読のどちらでもその意図が十分に伝わるよう工夫している。タイポグラフィーに注目すれば、この詩は“The bud”、“it is lovely”、“as Saint Francis”が短い行で独立している。これによって、やはり人間と事物が同等であることを示しているのだ。
- 14 “Saint”の解釈については、Bennett (“Sheer” 108-15)、Calhoun (86-89, 124-25)、Goldensohn (“Approaching” 315-16 and “Galway” 257)、Hall (165-66)、Hallenbeck、Hirsch (“Galway” 39)、Hornback (304)、Lazer (86-88, 90)、Malecka、Nelson (“Introduction” 2-3 and “Review” 102)、Ravinthiran (80-82)、Robinson (135-37, 143, 172-73)、Rogers (318-19)、Stigliani、*A Study Guide*、Zimmerman (199-200)、『アシジ』(135-47)、『聖フランシスコ』(46-55, 102-14) 等を参考にした。

参考文献

- Allen, Gay W., and Charles T. Davis, editors. *Walt Whitman's Poems*. New York UP, 1968.
- “Allen Ginsberg on Walt Whitman with Sharon Olds and Galway Kinnell (1992).” *YouTube*, uploaded by Manufacturing Intellect, 2 May. 2016, https://www.youtube.com/watch?v=2M5O3_FYB4A.
- Aspiz, Harold. “‘This Compost’ (1856).” *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_695.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Atkins, Cynthia, and Jeanne Beaumont. “Being with Reality: An Interview with Galway Kinnell.” *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/41807025#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Atlas, James. “From Autobiography of the Present.” *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 80-81.
- Baker, Jeff. “Galway Kinnell, Brave Poet and Activist with Portland Connection, Dies at 87.” *Oregonlive*, 2023, https://www.oregonlive.com/books/2014/10/galway_kinnell_brave_poet_and.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Baldwin, David B. “‘Respondez!’ (1856).” *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_630.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Bell, Charles G. “Galway Kinnell.” *On the Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*, edited by Howard Nelson, U of Michigan P, 1987, pp. 25-28.
- Bennett, Joseph. “From I’ve Got a Little List.” *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 40-41.

- Bennett, Tanya Long. "Sheer Blue Milken Dreaminess: Galway Kinnell's Answer to Logopoeia in 'The Fly,' 'Saint Francis and the Sow,' and 'Blackberry Eating'." *Epiphany*, 2023, <http://epiphany.ius.edu.ba/index.php/epiphany/article/view/23>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Bristol, Barbara K. "Biographical Afterword." *Collected Poems*, by Kinnell, Mariner Books, 2017, pp. 575-80.
- Byrne, Edward. "Galway Kinnell: A Question of Life or Death." *One Poet's Note*, 2023, <http://edwardbyrne.blogspot.com/2008/02/galway-kinnell-question-of-life-or.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Calhoun, Richard J. *Galway Kinnell*. Twayne Publishers, 1992.
- Cambridge, Richard. "Split This Rock Report." *Split This Rock*, 2023, <http://blogthisrock.blogspot.com/2008/03/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Chase, Richard Volney. "One's Self I Sing." *Leaves of Grass*, edited by Sculley Bradley and Harold W. Blodgett, W. W. Norton, 1973, pp. 889-95.
- Childs, Martin. "Galway Kinnell: Pulitzer Prize-Winning US Poet Whose Accessible, Intensely Human Work Covered Family, Illness and the Ravages of War." *Independent*, 2023, <https://www.independent.co.uk/news/people/galway-kinnell-pulitzer-prizewinning-us-poet-whose-accessible-intensely-human-work-covered-family-illness-and-the-ravages-of-war-9833922.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "Obituary: Galway Kinnell, Poet." *The Scotsman*, 2023, <https://www.scotsman.com/news/obituaries/obituary-galway-kinnell-poet-1521794>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Collins, Billy. "Foreword." *Leaves of Grass*, by Whitman, Signet Classics, 2013, pp. xxv-xxxv.
- "Conversing with the World: The Poet in Society." *Poets.org*, 2023, <https://poets.org/text/conversing-world-poet-society>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Cooke, John, and Jeanie Thompson. "Three Poets on the Teaching of Poetry." *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/375832>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Costanzo, Angelo. "Organicism." *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_577.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Cushing, Robert. "Poetry Finds Its Voice on Iraq." *Time*, 2023, <https://content.time.com/time/world/article/0,8599,433060,00.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Dacey, Philip. "'To the States' (1860)." *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_714.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- deNiord, Chard. "An Interview with Galway Kinnell." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/23053002#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Diaz, Natalie, et al. "On Galway Kinnell." *LARB*, 2023, <https://lareviewofbooks.org/article/galway-kinnell-2/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Dickstein, Morris. "Impact and Triumphant." *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 107-11.
- Dodd, Wayne, and Stanley Plumly. "An Interview with Wayne Dodd and Stanley Plumly." *Walking Down the Stairs*, by Kinnell, U of Michigan P, 1978, pp. 41-57.

- Dowden, Edward. "The Poetry of Democracy: Walt Whitman." *The Walt Whitman Archive*, 2023, <https://whitmanarchive.org/criticism/reviews/lg1871/anc.00073.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Dwyer, Colin. "Book News: Remembering Poet Galway Kinnell, Whose Song Said Everything." *npr*, 2023, <https://www.npr.org/sections/thetwo-way/2014/10/30/360107730/book-news-remembering-poet-galway-kinnell-whose-song-said-everything>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Edwards, Margaret. "An Interview with Margaret Edwards." *Walking Down the Stairs*, by Kinnell, U of Michigan P, 1978, pp. 100-12.
- Erkkila, Betsy. *Whitman the Political Poet*. Oxford UP, 1989.
- "Exhibition Honors Late Poet Galway Kinnell, '49." *University of Rochester*, 2023. https://www.sas.rochester.edu/eng/news-events/archive/2014/2014-11-14_galway-kinnell.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Farawell, Martin. "2010 Festival Poet: Galway Kinnell." *Dodge Poetry Blog*, 2023, <https://blog.grdodge.org/2010/07/23/poetry-fridays-festival-poet-galway-kinnell/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Fitz Gerald, Gregory, and William Heyen. "'Deeper Than Personality': A Conversation with Galway Kinnell." *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/20157582>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Folsom, Ed. "Kinnell, Galway (1927-2014)." *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_319.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- . *Walt Whitman's Native Representations*. Cambridge UP, 1994.
- "Fooling with Words I." *BillMoyers.com*, uploaded 28 May, 1999, <https://billmoyers.com/content/fooling-with-words-part-i/#>.
- "Fooling with Words II." *BillMoyers.com*, uploaded 28 May, 1999, <https://billmoyers.com/content/fooling-with-words-part-2/>.
- Friebert, Stuart, et al., editors. *A Field Guide to Contemporary Poetry and Poetics*. Oberlin College Press, 1997.
- "Galway Kinnell." *Poetry Foundation*, 2023, <https://www.poetryfoundation.org/poets/galway-kinnell>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "Galway Kinnell: Nuclear Threat and Poetry." *Pen America*, 2023, <https://pen.org/multimedia/galway-kinnell-nuclear-threat-and-poetry/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "Galway Kinnell Obituary." *AL.com*, 2023, <https://obits.al.com/us/obituaries/mobile/name/galway-kinnell-obituary?pid=172988765>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "Galway Kinnell Papers." *University of New Hampshire*, 2023, <https://library.unh.edu/find/archives/collections/galway-kinnell-papers>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "Galway Kinnell Reads 'To The States' By Walt Whitman." *YouTube*, uploaded by splitthis-rock, 15 Feb. 2009, <https://www.youtube.com/watch?v=Rij1-wKB5uY>.
- "Galway Kinnell with The Ohio Review." *eNotes*, 2023, <https://www.enotes.com/topics/galwa>

- y-kinnell/critical-essays/kinnell-galway. Accessed 1 Apr. 2023.
- Gardner, Thomas. "An Interview with Galway Kinnell." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/1207901#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Gioseffi, Daniela. "Interview with Galway Kinnell." *The Wayback Machine*, 2023, <https://web.archive.org/web/20200723151956/http://www.cortlandreview.com/issue/17/kinnell17.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Goldbarth, Albert, and Virginia Gilbert. "An Interview with Albert Goldbarth and Virginia Gilbert." *Walking Down the Stairs*, by Kinnell, U of Michigan P, 1978, pp. 7-11.
- Goldensohn, Lorrie. "Approaching Home Ground: Galway Kinnell's *Mortal Acts*, *Mortal Words*." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/25089553#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "Galway Kinnell and the Domestication of the Transcendental." *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 244-69.
- Goldstein, Laurence. "The Response of American Poets to 9/11: A Provisional Report." *Michigan Quarterly Review*, 2023, <https://quod.lib.umich.edu/cgi/t/text/text-idx?cc=mqr;c=mqr;c=mqrarchive;idno=act2080.0048.108;g=mqrg;rgn=main;view=text;xc=1>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Grünzweig, Walter. "Imperialism." *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_495.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Haba, Jim, and Martin Farawell. "The Geraldine R. Dodge Poetry Festival Welcomes Teachers and Poets." *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/821523>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Hall, Donald. "From 'Text as Test'." *On the Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*, edited by Howard Nelson, U of Michigan P, 1987, pp. 157-68.
- Hallenbeck, Brent. "Former State Poet Galway Kinnell Dies." *Burlington Free Press*, 2023, <https://www.burlingtonfreepress.com/story/life/arts/2014/10/29/vermont-poet-galway-kinnell-dies/18116329/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Harrington, Nora. "Poet Galway Kinnell '44 Returns for Commencement." *Wilbraham & Monson Academy*, 2023, [https://www.wma.us/uploaded/Atlas_StudentNewspaper/Atlas_v.3i.8_Final\(tph\).pdf](https://www.wma.us/uploaded/Atlas_StudentNewspaper/Atlas_v.3i.8_Final(tph).pdf). Accessed 1 Apr. 2023.
- Hass, Robert. "*Black Light*, Iran, and Galway Kinnell." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/24595625#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Hawkins, Sherman. "Galway Kinnell: Moments of Transcendence." *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 141-49.
- Heyen, William, and Gregory Fitz Gerald. "An Interview with William Heyen and Gregory Fitz Gerald." *Walking Down the Stairs*, by Kinnell, U of Michigan P, 1978, pp. 1-6.
- Hirsch, Edward. "Galway Kinnell: Transfigured Dread." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/44978857#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "Introduction." *Collected Poems*, by Kinnell, Mariner Books, 2017, pp. xxi-xxxix.
- Hoorenman, Johanna. "Trauma, Redemption and Language in Galway Kinnell's 'When the

- Towers Fell' and 'Avenue C'." *ResearchGate*, 2023, https://www.researchgate.net/publication/312628547_Trauma_redemption_and_language_in_Galway_Kinnell's_When_the_Towers_Fell_and_Avenue_C. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "Writing 'that animal darkness: Galway Kinnell, Gary Snyder, James Merrill.'" *Trinity College Dublin*, 2023, <http://www.tara.tcd.ie/handle/2262/75395>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Hornback, Bert. "Galway Kinnell's Imperfect Thirst." *Colby*, 2023, <https://digitalcommons.colby.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=3350&context=cq>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "An Interview with Galway Kinnell." *Academia*, 2023, https://www.academia.edu/43061082/Interview_with_Galway_Kinnell_in_Hawaii_Review_No_12_1981_pp_88_96. Accessed 1 Apr. 2023.
- "An Introduction to the Poetry Walk across the Brooklyn Bridge." *Poets House*, 2023, <https://poetshouse.org/video/an-introduction-to-the-poetry-walk-across-the-brooklyn-bridge/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Keniston, Ann. "'Not Needed, Except as Meaning': Belatedness in Post-9/11 American Poetry." *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/41472490>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Killingsworth, M. Jimmie. "'As If the Beasts Spoke': The Animal/Animist/Animated Walt Whitman." *Iowa University Libraries*, 2023, <https://pubs.lib.uiowa.edu/wwqr/article/25799/galley/134167/view/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . *Walt Whitman and the Earth: A Study of Ecopoetics*. U of Iowa P, 2005.
- Kinnell, Galway. *The Avenue Bearing the Initial of Christ into the New World: Poems 1953-1964*. Houghton Mifflin, 2002.
- . *The Book of Nightmares*. Ecco, 1973.
- . *Collected Poems*. Mariner Books, 2017.
- . "Introduction." *Essential Whitman*, by Whitman, Ecco, 1987, pp. xi-xxiv.
- . *Mortal Acts, Mortal Words*. Houghton Mifflin, 1980.
- . *A New Selected Poems*. Houghton Mifflin, 2000.
- . *A New Selected Poems*. Houghton Mifflin, 2001.
- . "A Note on the Revisions." *Three Books*, by Kinnell, Ecco, 2002, pp. xi-xiv.
- . "Ode and Elegy." *The New Yorker*, 2023, <https://www.newyorker.com/magazine/2006/10/30/ode-and-elegy>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "The Poetics of the Physical World." *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/20157770>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "Poetry, Personality and Death." *A Field Guide to Contemporary Poetry and Poetics*, edited by Stuart Frieberg, et al. Oberlin College Press, 1997, pp. 255-71.
- . "Saint Francis and the Sow." *The New Yorker*, 2023, <https://www.newyorker.com/magazine/1976/03/22/saint-francis-and-the-sow>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . *Saint Francis and the Sow*. Ravine Press, 1976.
- . *Selected Poems*. Houghton Mifflin, 1982.
- . *Three Books*. Ecco, 2002.

- . *Three Books*. Mariner Books, 1993.
- . *Walking Down the Stairs: Selection from Interviews*. U of Michigan Press, 1978.
- . “Walt Whitman and Negative Capability.” *VQR*, 2023, <https://www.vqronline.org/essay/walt-whitman-and-negative-capability>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . “When the Towers Fell.” *The New Yorker*, 2023, <https://www.newyorker.com/magazine/2002/09/16/when-the-towers-fell>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . “Whitman’s Indicative Words.” *Walt Whitman: The Measure of His Song*, edited by Jim Perlman, et al., Holy Cow! Press, 1981, pp. 313-25.
- Kumar, C. Santhosh, and Yanpolumi M. Sangma. “Commercialization of Religion in Galway Kinnell’s Poem *The Avenue Bearing The Initial Of Cross Into The New World*.” *Research-Gate*, 2023, https://www.researchgate.net/publication/349402473_Commercialization_of_Religion_in_Galway_Kinnell_Poem_The_Avenue_Bearing_The_Initial_Of_Cross_Into_The_New_World. Accessed 1 Apr. 2023.
- Lazer, Hank. “That Backward-Spreading Brightness.” *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 84-92.
- Logan, John. “The Bear in the Poet in the Bear.” *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 48-52.
- Malecka, Katarzyna. *Death in the Works of Galway Kinnell*. Kindle ed., Cambria Press, 2008.
- Mariani, Paul. “Kinnell’s Legacy On ‘The Avenue Bearing the Initial of Christ into the New World’.” *On the Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*, edited by Howard Nelson, U of Michigan P, 1987, 191-202.
- McDowell, Edwin. “700 Writers to Attend PEN International Congress.” *The New York Times*, 2023, <https://www.nytimes.com/1985/12/26/arts/700-writers-to-attend-pen-international-congress.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- McDowell, Susan. “Galway Kinnell: An Appreciation.” *Vermont Arts Council*, 2023, <https://www.vermontartscouncil.org/blog/galway-kinnell-an-appreciation/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- McKenzie, James J. “An Interview with James J. McKenzie.” *Walking Down the Stairs*, by Kinnell, U of Michigan P, 1978, pp. 33-40.
- . “To the Roots: An Interview with Galway Kinnell.” *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/40546780>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Mehr, Jeffrey. “Writing Poems: The Thrill of Discovery.” *University of Rochester*, 2023, https://www.rochester.edu/pr/Review/V77N3/pdf/1981_rr_kinnell.pdf. Accessed 1 Apr. 2023.
- Miller, Edwin H. *Walt Whitman’s Poetry: A Psychological Journey*. Houghton Mifflin, 1968.
- Mills, Ralph J, Jr. “A Reading of Galway Kinnell.” *CORE*, 2023, <https://core.ac.uk/download/pdf/61156132.pdf>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . “A Reading of Galway Kinnell: Part 2.” *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/20157579>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Molesworth, Charles. “The Rank Flavor of Blood: The Poetry of Galway Kinnell.” *On the*

- Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*, edited by Howard Nelson, U of Michigan P, 1987, pp. 45-61.
- Nawotka, Ed. “‘Resist Much, Obey Little’.” *PW*, 2023, <https://www.publishersweekly.com/pw/print/20030224/30545-resist-much-obey-little.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Nelson, Cary. “From ‘Ecclesiastical Whitman: On “The Avenue Bearing the Initial of Christ into the New World”’.” *On the Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*, edited by Howard Nelson, U of Michigan P, 1987, pp. 187-90.
- Nelson, Howard. “Introduction: The Weight of Words, the Road between Here and There.” *On the Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*, edited by Howard Nelson, U of Michigan P, 1987, pp. 1-18.
- . “Review of *Mortal Acts, Mortal Words*.” *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 101-04.
- , editor. *On the Poetry of Galway Kinnell: The Wages of Dying*. U of Michigan P, 1987.
- Pack, Robert. “From The Muse Is Always Gay.” *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 44-47.
- Parris, Peggy. “Rags of His Body: Thoreau in Galway Kinnell’s ‘The Last River’.” *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/23399990#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Passmore, John. “Pulitzer Prize Winner Galway Kinnell Dies at the Age of 87.” *WNYC*, 2023, <https://www.wnyc.org/story/85426-galway-kinnell-reads-walt-whitman/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- “Passwords: Galway Kinnell on Walt Whitman.” *Poets House*, 2023, <https://poetshouse.org/event/passwords-galway-kinnell-on-walt-whitman/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Perlman, Jim, et al., editors. *Walt Whitman: The Measure of His Song*. Holy Cow! Press, 1998.
- “Poetry against the End of the World.” *The Town Hall*, 2023, <http://thetownhall.org/event/poetry-against-the-end-of-the-world-century-of-story-and-song>. Accessed 1 Apr. 2023.
- “Poetry Breaks: Galway Kinnell Reads “Saint Francis and the Sow.” *YouTube*, uploaded by Poets.org, 19 May 2017, https://www.youtube.com/watch?v=yBJ3Llp_Lj8.
- “Poets Protest Loss of Podium.” *The Washington Times*, 2023, <https://www.washingtontimes.com/news/2003/feb/18/20030218-011731-9451r/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- “Poets Protest White House Cancellation.” *Herald-Tribune*, 2023, <https://www.heraldtribune.com/story/news/2003/02/10/poets-protest-white-house-cancellation/28739444007/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Poulin, A, Jr., and Stan Sanvel Rubin. “An Interview with A. Poulin, Jr., and Stan Sanvel Rubin.” *Walking Down the Stairs*, by Kinnell, U of Michigan P, 1978, pp. 20-32.
- Preston, Richard. “Walt.” *The New Yorker*, 2023, <https://www.newyorker.com/magazine/1992/04/13/walt>. Accessed 1 Apr. 2023.
- “Pulitzer Prize-Winning Poet Galway Kinnell Dies in Vermont.” *yahoo! entertainment*, 2023, <https://www.yahoo.com/entertainment/news/pulitzer-prize-winning-poet-galway-kinnell->

- dies-vermont-185816490.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Quinn, Alice. "Working Poets." *The New Yorker*, 2023, <https://www.newyorker.com/magazine/2006/10/30/working-poets>. Accessed 1 Apr. 2023.
- . "Writing for the Dead: An Interview with Galway Kinnell." *The New Yorker*, 2023, <https://www.newyorker.com/magazine/2002/09/16/writing-for-the-dead>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Quirós-Garcia, Elizabeth. "Classical Elements of Nature in Galway Kinnell's *The Book of Nightmares*." *Redalyc*, 2023, <https://www.redalyc.org/journal/4678/467863794004/html/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Rasula, Jed. *This Compost: Ecological Imperatives in American Poetry*. U of Georgia P, 2002.
- Ravinthiran, Vidyan. "Trying to Become Winged." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/26539648#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Ricks, Christopher. "In the Direct Line of Whitman, the Indirect Line of Eliot: *The Avenue Bearing the Initial of Christ into the New World*." *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 75-76.
- Ring, Wilson. "Galway Kinnell, Who Won Pulitzer Prize for Poetry, Dies at 87." *The Washington Post*, 2023. https://www.washingtonpost.com/entertainment/books/galway-kinnell-who-won-pulitzer-prize-for-poetry-dies-at-87/2014/10/31/e8fa39da-611b-11e4-9f3a-7e28799e0549_story.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Robinson, James William. "The Embrace Is All: Galway Kinnell's Poetry, 1950-1985." *CORE*, 2023, <https://core.ac.uk/download/pdf/215519417.pdf>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Rogers, David. "Review." *JSTOR*, 2023, <https://www.jstor.org/stable/40136121>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Sanneh, Kelefa. "Poetry Review; Ambiguity Is a Guest at a Readers' Evening." *The New York Times*, 2023, <https://www.nytimes.com/2003/02/19/theater/poetry-review-ambiguity-is-a-guest-at-a-readers-evening.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Schenker, Daniel. "Galway Kinnell's 'The Last River': A Civil Rights Odyssey." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/26475072#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- Smeller, Carl. "'To the States, To Identify the 16th, 17th, or 18th Presidentiad' (1860)." *The Walt Whitman Archive*, 2023, https://whitmanarchive.org/criticism/current/encyclopedia/entry_715.html. Accessed 1 Apr. 2023.
- Snyder, Gary. *Earth House Hold*. New Directions Book, 1957.
- . *Smokey the Bear Sutra*. Applewood Books, 2023.
- Stigliani, Emilie Teresa. "Galway Kinnell Honored by Poets, Friends." *Burlington Free Press*, 2023, <https://www.burlingtonfreepress.com/story/life/arts/2014/08/07/galway-kinnell-honored-poets-friends/13753917/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- A Study Guide for Galway Kinnell's "St. Francis and the Sow"*. Kindle ed., Gale, 2016.
- Taha, Aseel Abdul-Lateef. "The Allegorical Use of the Rituals of Hunting in Galway Kinnell's

- "The Bear'." *IRAQI*, 2023, <https://iasj.net/iasj/download/5023ebb3c23a22c8>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Tobias, Michael, editor. *Deep Ecology*. Avant Books, 1985.
- Trodd, Zoe. "Poets to Come: Walt Whitman in the American Protest Literature Tradition." *The Mickle Street Review*, 2023, <http://msr-archives.rutgers.edu/Scholarship/essays/Trodd.pdf>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Tuten, Nancy Lewis, editor. *Critical Essays on Galway Kinnell*. G. K. Hall, 1996.
- "2006: Galway Kinnell Reads from 'Song of Myself'." *Poets House*, 2023, <https://poetshouse.org/audio/2006-galway-kinnell-reads-from-song-of-myself/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "2008: Galway Kinnell Reads 'Crossing Brooklyn Ferry'." *Poets House*, 2023, <https://poetshouse.org/audio/2008-galway-kinnell-reads-crossing-brooklyn-ferry/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Ullman, Leslie. "Deep Imagists: The Subconscious as Medium." *Microsoft 365*, 2023, <https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpersonal.colby.edu%2F~isadoff%2Fcap%2FULLman.doc&wdOrigin=BROWSELINK>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Vendler, Helen, editor. *Voices and Visions: The Poet in America*. Random House, 1987.
- "Voices and Visions: Walt Whitman (1988)." *YouTube*, uploaded by Scott And Park, 6 June. 2022, <https://www.youtube.com/watch?v=yKV0FVSE6k&t=638s>.
- Weston, Susan. "To Take Hold of the Song: The Poetics of Galway Kinnell." *Critical Essays on Galway Kinnell*, edited by Nancy Lewis Tuten, G. K. Hall, 1996, pp. 205-17.
- Wheeler, Susan. "An Interview with Galway Kinnell." *JSTOR*, 2023, https://www.jstor.org/stable/40356342#metadata_info_tab_contents. Accessed 1 Apr. 2023.
- "Where to Celebrate Walt Whitman for the Next Two Months." *The New York Times*, 2023, <https://www.nytimes.com/1992/03/27/books/where-to-celebrate-walt-whitman-for-the-next-two-months.html>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Whitman, Walt. *Essential Whitman*. Edited by Galway Kinnell, Ecco, 1987.
- . *Leaves of Grass*. Edited by Sculley Bradley, W. W. Norton, 1973.
- . *Leaves of Grass*. Signet Classics, 2013.
- . *Leaves of Grass: The First (1855) Edition*. Penguin Classics, 1961.
- . "Old Age Echoes." *Leaves of Grass*, edited by Sculley Bradley, W. W. Norton, 1973, p. 575.
- . *Walt Whitman: Poetry and Prose*. Library of America, 1996.
- Winship, Frederick M. "New York Celebrates Whitman with Grandiose Centennial." *UPI*, 2023, <https://www.upi.com/Archives/1992/03/26/New-York-celebrates-Whitman-with-grandiose-centennial/7292701586000/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- "Worldwise." *The Washington Post*, 2023, <https://www.washingtonpost.com/archive/lifestyle/travel/1992/03/22/worldwise/11689b46-9c86-447e-b261-3ea797130783/>. Accessed 1 Apr. 2023.
- Zimmerman, Lee. *Intricate and Simple Things: The Poetry of Galway Kinnell*. U of Illinois P, 1987.

- Zweig, Paul. *Walt Whitman: The Making of the Poet*. Penguin Books, 1984.
- 『アシジの聖フランシスコの小さき花』. 石井健吾訳, 聖母の騎士社, 1994.
- スナイダー, ゲアリー. 「土地に根ざして生きる」. 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』, アラン・ドレングソン編, 昭和堂, 2001, pp. 194-210.
- スナイダー, ゲアリー. 『地球の家を保つには エコロジーと精神革命』. 片桐ユズル訳, 社会思想社, 1975.
- 『聖フランシスコ大伝記』. 宮沢邦子訳, あかし書房, 1981.
- ドレングソン, アラン編. 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』. 井上有一訳, 昭和堂, 2001.
- ネス, アルネ. 「自己実現——この世界におけるエコロジカルな人間存在のあり方」. 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』, アラン・ドレングソン編, 昭和堂, 2001, pp. 45-74.
- . 『ディープ・エコロジーとは何か——エコロジー・共同体・ライフスタイル』. 斎藤直輔他訳, 文化書房博文社, 1997.
- , ジョージ・セッションズ. 「ディープ・エコロジーのプラットフォーム原則」. 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』, アラン・ドレングソン編, 昭和堂, 2001, pp. 75-82.
- ホイットマン, ウォルト. 『草の葉 (上)』. 酒本雅之訳, 岩波書店, 1998.
- . 『草の葉 (中)』. 酒本雅之訳, 岩波書店, 1998.
- . 『草の葉 (下)』. 酒本雅之訳, 岩波書店, 1998.
- . 『草の葉 初版』. 富山英俊訳, みすず書房, 2013.
- ライト, D・W 編. 『アメリカ現代詩 101 人集』. 沢崎順之助他訳, 思潮社, 1999.
- ラシャベル, ドロレス. 「儀式の意味——地域の土地とのコミュニケーション」. 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』, アラン・ドレングソン編, 昭和堂, 2001, pp. 211-19.
- 井上有一. 「深いエコロジー運動とは何か——ディープ・エコロジー運動の誕生と展開」. 『ディープ・エコロジー——生き方から考える環境の思想』, アラン・ドレングソン編, 昭和堂, 2001, pp. 1-27.
- 川下勝. 『アッシジのフランチェスコ』. 清水書院, 2004.
- 小泉純一. 「アメリカ詩人たちにとっての 9.11 とイラク攻撃」. 『現代と文化: 日本福祉大学研究紀要』, 109 巻, 2003, pp. 21-36.
- 杉山和芳. 「ゴールウェイ・キネルの渇き」. 『姫路獨協大学外国語学部紀要』. 第 9 号, 1996, pp. 117-37.
- 藤江啓子. 『資本主義から環境主義へ——アメリカ文学を中心として』. 英宝社, 2016.
- 森田孟. 「『王国』到来の後光を求めて——Galway Kinnell の詩」. つくばりポジトリ, 2023, file:///C:/Users/user/Downloads/3-1.pdf. Accessed 1 Apr. 2023.